

医療系学部初年次多職種連携実習における地域公共 図書館との連携

—2年目の事例報告—

柿崎真沙子¹⁾、田中里枝子²⁾、福田光輝²⁾、藤坂康司³⁾、脇田妙子³⁾、和田彩子²⁾、高桑修¹⁾

¹⁾ 名古屋市立大学、²⁾ 名古屋市鶴舞中央図書館、³⁾ 名古屋市志段味図書館

【医療系3学部連携地域参加型学習】

名古屋市立大学の医療系学部連携早期体験学習カリキュラムでは、医学部、薬学部、看護学部の医療系3学部の1年生を対象に学部を横断して9人前後28グループに編成し28の地域・機関にご協力いただき、地域・機関におけるニーズや課題を発掘し、それらを解決していくグループ学習を実施している。本報告では、2022年に実施した名古屋市内の図書館2館との連携事例について報告する。

【各図書館の特徴】

2021年度より連携を開始した鶴舞中央図書館は、140万冊という市内に21館ある市立図書館の中で最大の蔵書を持ち、名古屋市の中央図書館機能を持つ図書館であり、名古屋市が直接運営を行っている。2022年度より連携を開始した志段味図書館は、実用書・読み物・児童書を中心に約7万冊所蔵し、区民を中心に地域で利用される図書館であり、指定管理により名古屋TRC・長谷工グループが運営を行っている。

【各図書館でのグループ活動】

2022年度は、どちらの施設も2グループに分かれ、企画を実施した。鶴舞中央図書館ではコグニサイズグループと、がんの本グループに分かれた。コグニサイズグループは高齢者を対象としたコグニサイズ教室の企画をし、11月5日に実施した。がんの本グループは、学生が名古屋市立大学の医師にヒアリングをした上でがんに関連した書籍を選書し、11月19日から12月1日まで展示を行った。志段味図書館では、栄養グループとウォーキンググループに分かれた。栄養グループでは、栄養に関するパンフレットを作成し、清涼飲料に含まれる砂糖の量についての展示を行った。ウォーキンググループは周辺のウォーキングマップを作成し、正しい歩き方の動画を作成しマップ内にQRコードを掲示することで閲覧可能なものにした。栄養・ウォーキングともに司書の方に選書していただいた書籍を一緒に展示し、11月13日から12月28日まで展示を行った。

【結び】

2021年度に引き続き、医療系実習における公共図書館の連携事例を紹介した。2022年度は企画や展示のための配布物作成や選書を行う過程で、学生が学びを深める場面が多くあり、より充実した取り組みを行うことができたと感じている。本カリキュラムでは2023年度はさらにもう1館、公共図書館と連携する。今後も公共図書館との連携を積極的に図っていき、本カリキュラム以外でも連携ができるようになればと考えている。